

# がんの最新治療紹介

## 市民公開講座に200人

神戸

がん治療について学ぶ市民公開講座「神戸から発信する『根治を目指す最新がん治療法』」の第4回が21日、神戸市中央区楠町7の神戸大医学部付属病院シスメックスホールで開かれた。約200人が、専門家による検査や治療法に耳を傾けた。

同病院や神戸新聞社などでつくる実行委員会が5回シリーズで企画。4回目の今回は消化器内科と整形外科の担当者が講師を務めた。

同病院消化器内科の田中心和・特定助教は、胃がん、食道がん、大腸がんなどについて「頻度の多い疾患だが、内視鏡で早期に見つけて治療すれば治せる」「お酒を飲んですぐに赤くなる人は、食道がんのリスクを考えるべき」と分かりやすく説明した。

神戸大医学部付属国際がん医療・研究センター整形外科の河本旭哉診療科長は、骨などにできる骨軟部肉腫について話した。悪性を疑う特徴や画像検査を具体的に紹介した上で、「病気を治療するためには、自分の病気をよく理解すること。患者と医療者が協力することや、旅行に行く、家族で過ごすなどの目標を持つことも重要」と語り掛けた。

(上田勇紀)



ヘリコバクターピロリ菌  
・ヒトなどの胃に生息するらせん型のグラム陰性好気性細菌である。  
・ヘリコバクターピロリの感染は、慢性胃炎潰瘍や十二指腸潰瘍のみならず、胃癌MALTリンパ腫、特異性血小板減少症の原因となること等明らかとなっている。

がん治療の現状について  
話す田中心和特定助教  
神戸市中央区楠町7